

## 第6回日本認知症予防学会学術集会 発表

題名；中鎖脂肪酸を構成成分とする補助栄養の継続摂取によりコミュニケーション面に影響がみられた  
認知症高齢者の1例

氏名；石山寿子<sup>1),2)</sup>、渡邊慎二<sup>3)</sup>、野坂直久<sup>3)</sup>

所属；<sup>1)</sup>医療法人社団永生会南多摩病院リハビリ統括管理部、<sup>2)</sup>日本大学歯学部摂食機能療法学講座、  
<sup>3)</sup>日清オイリオグループ株式会社

### 【目的】

近年アルツハイマー型認知症(AD)におけるブドウ糖代謝異常が注目されている。ケトン体はブドウ糖の代替エネルギーとして考えられ、中鎖脂肪酸(MCF)摂取は絶食や飢餓の状態でもケトン体を生成することから、AD症状に対する影響が検討されている。今回我々はMCFを含む補助食品を認知症高齢者に継続して摂取させ、コミュニケーションを中心とした認知症状を評価したので報告する。

### 【方法】

対象は介護老人保健施設に入所中の重度アルツハイマー型認知症を呈する90代女性。MCTが6g含まれた補助食品(エネプリンR、日清オイリオグループ社製)を毎日1個(110kcal)、継続摂取してもらい、認知症状、ADL、栄養状態について評価した。3ヶ月継続摂取した後、3ヶ月の非経口摂取期間を経て再度摂取し、経過を分析検討した。評価内容は施設介護者の観察によるADL状況や認知症状の変化の抽出と、言語聴覚士によるコミュニケーション面の評価(自由会話、呼称、書字)であった。

### 【結果】

1)摂取開始時：ADLは食事部分介助、移乗、移動自立以外全介助。Barthel Index (BI) 35点、徘徊見られるも全体的な活動性は低く、日中から傾眠時間が多い状況。失語・失行・失認は重度、家族の認識困難。表情は堅く、問かけには短い独語を繰り返し、会話は困難であった。2)MCF3ヶ月継続摂取後：認知症状全般の陽性症状が増え、活動性が上がった。表情が豊かになり、問かけに対する文レベルの会話が成立する場面が増えた。名前の書字が可能となった。BI35点。3)MCF摂取終了後3ヶ月：徐々に活動性が低下し、表情も堅く、コミュニケーション機能も低下した。BI30点4)MCF再摂取開始後：低下した移動能力や活動性に顕著な影響は見られなかったが、表情と会話数の増加を認めた。